

令和4年 第11回全員協議会会議録

令和4年10月24日 議員控室

○事 件

町長報告事項

(1) 北斗市内工区トンネル発生土の八雲町内受入地への受け入れについて（新幹線推進室）

○出席議員（13名）

議長 千 葉 隆 君
赤 井 睦 美 君
横 田 喜世志 君
関 口 正 博 君
倉 地 清 子 君
牧 野 仁 君
能登谷 正 人 君

副議長 黒 島 竹 満 君
佐 藤 智 子 君
大久保 建 一 君
宮 本 雅 晴 君
三 澤 公 雄 君
安 藤 辰 行 君

○欠席議員（1名）

齋 藤 實 君

○出席説明員（6名）

町長 岩 村 克 詔 君
総務課長 竹 内 友 身 君
新幹線推進室長 鈴 木 敏 秋 君

副町長 成 田 耕 治 君
財務課長 川 崎 芳 則 君
推進係 岡 島 孝 明 君

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君
庶務係長 菊 地 歩 夢 君

事務局次長 成 田 真 介 君

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） おはようございます。臨時会に引き続き、全協を開催いたします。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは早速報告事項ということで、北斗市内工区トンネル発生土の八雲町内受入地への受け入れについて、報告をお願いいたします。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 議長、新幹線推進室長。

○議長（千葉 隆君） 新幹線推進室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 本日、本件は、10月13日の総務経済常任委員会に報告したものでありますが、全員協議会においても報告を求められましたので、改めて報告といたしたいと思っております。

内容は、新幹線トンネル工事発生土対策土処分にに関わり、令和2年度八雲町内工区発生土を北斗市処分地へ搬入したことにに関わり、当初の約束どおり、来年から北斗市内の工区の発生土を八雲町へ搬入する計画がこのほど鉄道・運輸機構から示されましたので、報告いたしたいと思っております。

それでは、係から報告をいたしますので、よろしくをお願いいたします。

○推進係（岡島孝明君） 議長、推進係。

○議長（千葉 隆君） 推進係。

○推進係（岡島孝明君） それでは、説明をさせていただきます。

まず、表紙をめくって2ページ目になりますが、概要のご説明をさせていただきます。

北斗市内の新幹線トンネルからの発生土のうち、対策土約8万³m³について、八雲町内の発生土受入地、鉄道・運輸機構からは、黒岩地区Cへの受け入れの要請がございました。

搬入数量等につきましては、記載のとおりでございますけれども、まず北斗市内の渡島トンネル台場山工区より2.2万³m³、同様に北斗市管内、渡島トンネル天狗工区より5.8万³m³、合計約8万³m³を八雲町の黒岩地区Cに受け入れるということでございます。

スケジュールに関しましては、令和5年5月から令和6年11月を想定しております。12月から3月の冬の期間については、搬入停止ということで鉄道・運輸機構から報告を受けております。参考ですけれども、令和2年6月から令和3年5月ですね、先ほど室長が報告したとおり、八雲町内の対策土8万³m³を北斗市の村山受入地で受け入れ済みでございます。

次に資料3ページ目でございますけれども、平面図になりますけれども、図左側の工区が北斗市内の台場山と天狗工区になりまして、この場所から図右側の黒岩地区Cへ搬入するという計画でございます。

次に資料4ページ目と5ページ目をあわせてご覧いただきたいんですけども、北斗市管内の各工区から持ってくる対策土の濃度に関して5ページ目に記載しております。5ページ目からご説明しますが、渡島トンネルの台場山工区から出てくる環境基準を超えたものですが、ヒ素でありまして、今のところ最大0.011mg/lということで、環境基準の0.01をわずかに超えているものでございます。同様に渡島トンネル天狗工区からは環境基準0.8に対して1.5mg/lというものの対策土を持ってくる予定であるんですけども、4ページ目に記載している数字のトンネル発生土、

搬入可能最大濃度をご覧いただきたいと思うんですけども、こちらの数値は八雲町の黒岩C受入地におけるトンネル発生土の搬入可能最大濃度、要はこの土地にどれくらいの高い濃度までを持ってこれるかという数字になるんですけども、ヒ素に関しては1.409と。それでフッ素に関しては22.4ということで、5ページ目と比較しても、黒岩Cに受け入れられる濃度より、かなり低い値の対策土が持ってくる予定ということで、安心して受け入れられるというところでございます。

以上でご報告を終わります。

○議長（千葉 隆君） 報告を受けた件について、何か皆さんのほうから何かありませんか。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） 4ページですけども、トンネル発生土搬入可能最大濃度って数値が出ていますが、黒岩Cにおいては現地盤に直接置くというやり方ですけども、黒岩Cの土質がどういうものだからここまで受け入れられるということになっているんですか。黒岩Cの土の状態というか、どういう土なのかご説明をお願いいたします。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 議長、推進係。

○議長（千葉 隆君） 推進係。

○新幹線推進係（岡島孝明君） 土質に関しては、今こちらで把握はしていないんですけども、なので鉄道・運輸機構のほうへ直接、佐藤議員より確認いただければと思うんですが、土質の違いは把握していないんですけども、層の違いももちろんございまして、ここに5ページ目に書いています地質について、渡島トンネル台場山であれば上礫層群頁岩、渡島トンネル天狗山であれば八雲層ということでの層の違いもありまして、黒岩Cについては、記憶なんですけど、国縫層という層だったはずですよ。ごめんなさい、確認が必要なんですけど、そういった違いもございまして。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） お答えありがとうございます。

私が直接、機構に聞くのではなくて、そちらのほうでちゃんと情報を確認して、私たちに伝えるべきなのが、あなたがたの仕事ですから、それをやってください。

（何か言う声あり）

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 佐藤議員ですね、この土質だとか工法についてはですね、八雲町も専門家ではございませんので、町としては今の要対策土を安全に、これからも永久的に保管できるという条件をお伝えして、今のところ機構からは安全に置けるということでお答えをもらっていますので、我々として、土がどうこうって専門的な分野がありませんので、新幹線推進室も専門ではありませんので、その辺については、我々はお答えできないということでご理解をいただきたいと思っております。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） 安全に受け入れられるという確証として、どういう土の成分かを新幹線推進室としても、ちゃんと把握をして、住民に伝える責務があるんじゃないですか。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 佐藤議員ですね、この我々ですね、例えば今●●が安全だとか今、我々最終処分場がいろいろやっていますが、あくまでも専門家が見て安全だということで答えをもらっていますので、我々としては安全ということと、機構、国がやっていることでありますので、それは信頼関係もあり、工事は進めているということで理解をしながらですね、行っているということでご理解をいただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） ちゃんと聞いてみてください、機構のほうに。そしたら機構は答えてくれるかもしれないし、答える責務が機構にはありますので、聞く前からそういう判断はちょっと違うんじゃないかなと思います。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほどから言っているとおり、私どもはですね、プロではありませんので、たとえば井戸水を、水の検査をしてこれは飲めるということで判断が出れば私たちは安全に水を飲んでいきます。同時に今、機構がやっている工事についても、我々は安全であるということをお聞きしていますので、それは安全であるということで理解しながら置いてもらってるとということで町としては理解しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） では、3ページの地図ですけれども、この黒岩地区Cというのが、活断層の真上だということなんですけれども、地震が起きたときにどのような状態になるかとか、そういう協議はしていますか。活断層ということを知っていましたか。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほどから言っているとおり、今ですね、置くのは北斗から八雲町が急遽お願いして、機構がお願いして八雲町の要対策土を北斗市に運んだというのと同じ量を今黒岩地区に搬入するということですので、別に今、新たに置くわけではなくて、今までもこの黒岩地区、山崎地区に置いていますので、それと活断層があるかないというのは、私どもは聞いていませんけれども、安全にあるということをご理解しておりますので、理解をいただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） あとですね、日本共産党のほうで、私は行っていませんが9月30日に機構のほうに行ってですね、黒岩Cが最大濃度1.409 mg/lを受け入れられるということを取り上げまして、それで黒岩のほうには14倍を超した場合には町や住民に説明して協議をすると機構が答えたということなんです。ですから、これだけ濃いものを受け入れるということは協議が必要なのではないですか。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 日本共産党さんと、機構の話は私はわかりませんが、今のところ八雲町としては機構さんのほうに工事は安全に行うこと、さらに要対策土、さらに要対策土を抜いても安全に未来に影響がないようにと強くお願いしていますので、今のところしっかりとやりますと聞いていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） 町長も機構への信頼感がものすごく強いということはわかりました。

それで活断層の真上ということと、あとはシラリカ川に影響があるって話も聞いていますので、ほかの人はどう思うかわかりませんが、私はこの土地に搬入するというのは見直したほうがいいのではないかと考えています。以上です。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 佐藤議員ですね、確かに不安というのは、今の要対策土ばかりではなくて、私たちが今、津波についても日本海、千島海溝ということで、そういう影響を受けるということで、八雲町も指示いただきましたので、その辺も一気にはいきませんが、住民の安心・安全のために努力していくと、ただ、今言ったとおり、機構の工事に関しては安全に行われるものということでご理解しておりますので、もし何かあった場合にはまた議会の皆様に説明をさせていただき、町民の皆さんにもお知らせをするということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） そのほか。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） 約2年前に濃度の濃いやつが出て、置き場所探ししましたよね、あのときも多分工事をやる前に、このように予測地点濃度なんかを想定してやってたんだと思うんですけども、想定外のものが出たと。そして当時はまだそれを安全に管理する場所が定まっていなかったから、その工事現場にしばらく係留しておいたということがありましたでしょ。それで今回、八雲以外のところから運んでくるんですけども、そのものが僕らも八雲には慣れ親しんでいるので、報告を信じる下地ができてるんですけども、向こうから運んでくるものが、やはり均一ではないと思うんですね、そういった意味で、たとえばトラックごとのムラや計測のサンプリングの方法なんかは八雲とほぼ同じ感じでやってるんでしょうか。それと、もし濃いものが出たときに、その置き場所なんかも今、準備している鉛川のところには予備のスペースなんかがあったりするんでしょうか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 議長、新幹線推進室長。

○議長（千葉 隆君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 三澤議員のご懸念されることでありますけれども、三澤議員がおっしゃるとおり、2年前、磐石工区で黒岩Aの搬入地には基準を超えるものが出たと、それを誤って持ってきてしまったということで議員がおっしゃるとおり、その搬入先を決められるまでトンネル工事ヤード内および一回持ってきて若干濃度が濃くなってしまった対策土を搬入地のすぐ脇にですね、封じ込みした中で仮置きするということですが、議員がおっしゃるとおり、それを鉛川のほうに必要な対策をとったうえで十分安全な私たちで置けるといいう工法をとった中で置いた

わけであります。ですので、北斗市から来るものが、この資料でいけば5ページにあるとおり、たとえばヒ素でいけば0.011が最大だということを示されていますが、これを上回った場合は、機構のほうで黒岩Cでいいのか、議員がおっしゃるとおり鉛川でいいのかということになるんだと思います。ただし先ほどから、これまでも何回も申していますが、黒岩Cにおいては、たとえばヒ素ですが1.409 mg/lまでのものは搬入可能なんですね、ですので、十分に幅があるということだと思います。これを超したものが先ほど言った磐石のところを出たということですが、それが出た場合に、鉛川でどれだけ受け入れられるのかと、ちょっと鉛川の最大上限値は手元に数字はないんですけれども、そういう判断になるのかなと思います。

ただ、鉛川もあくまでもその十分な方法をとって、たとえば簡単に言ったら鉛川の場合、最初は磐石から出た分の対応をするためだけに必要な面積相当を、土質、粘着質のものを敷いて、そこに置くということだったんですけれども、結果的に鉛川の②のほうについては全面積その粘着土を置いた形になっていますので、それで対応できるのであれば委員が心配されるような、量にもよりますが十分対応可能ではないかなというふうに思います。それで対応できないなら、また粘着土を増すだとかそういうことになるんだろうと思います。

あくまでもこれは機構が北斗市から出てくる土の土質によって検討するんですけれども、それと北斗市も八雲町と同様にトンネルから発生する土については先進ボーリングによってその都度100m置きに調査しておりますので、運ぶ前には、どの程度の濃度の者なのかということも十分調査しておりますので、そういう中でもし想定外であればそのときに検討すると、十分な対策をとったうえでどうするのかということになるんだろうというふうに思います。

○8番（三澤公雄君） もう一点。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） ちょっとこだわって申し訳ないけれども、濃度が濃いものももし出た場合でも、今度、輸送距離かなり長いでしょ、その粉じんというか、そういうものの対策をしてこっちまで来るのかな、変な話途中で何か漏れたものに関して、これは八雲のものだから八雲が損害賠償だっということが出てくることもちょっと、それとも移動中は機構のものなの。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 議長、新幹線推進室長。

○議長（千葉 隆君） 推進室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 従来、町長からも申し上げていたと思うんですけれども、搬入された後の搬入地の関係についても機構が責任を持つということと言質を取ってますので、当然、今言われたような北斗市から八雲の運搬途中、これは運搬中についても当然、工事施工会社に厳しい指導はすると思いますが、それをされた後において機構が責任を持つのが当たり前だという姿勢でこちらとしてはいるものであります。

○8番（三澤公雄君） わかりました。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○9番（牧野 仁君） はい。

○議長（千葉 隆君） 牧野さん。

○9番（牧野 仁君） 今の三澤さんのやり取りを聞いて、運搬の話が出たのでちょっと確認なんですけど、先ほど事務局から報告がありましたけど8万㎡ということで、ダンプの一台当たり4から5にしたら2万台の台数になるんですけれども、だいたい10か月くらい運ぶということで、その中で

運搬の交通安全対策というか、距離も相当ありますので、経路をちょっと聞きたいんですけども、厚沢部線から走るのか、5号線沿いから走るのか2か所あると思うんですけども、非常に私、落部に住んでいて厚沢部線がすごく混雑している状態で、特に信号も踏切もガードマンが一切付かない、一番心配されるのが通学路でもありますし、幼稚園もあり小学生、中学生もいますので、その辺の対策は機構とどういう話をされていますか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 議長、新幹線推進室長。

○議長（千葉 隆君） 推進室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 具体的な経路は私どももトンネル工事の現場が北斗市から厚沢部に抜ける中山峠、その辺だという思いで聞いていますから、当然厚沢部線を通ってくるという思いがあるので、確認していませんが基本的にはそうだと思います。あと議員がおっしゃるとおり、落部の市街地の、支所から国道5号まで踏切を越えてのあの辺が交通渋滞やいろいろ問題が過去には指摘された経緯もあります。その都度、機構のほうには伝えております。改めて今回もその辺の心配が議会からあったというかたちで伝えたいと思います。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

ないようですので、これで終了いたします。ご苦労様でした。

◎ その他

○議長（千葉 隆君） そのほか皆さんから何かございませんか。

ないようですので、第11回の全員協議会はこれで終了いたします。ご苦労様でした。

[閉会 午前10時41分]